

桜十字福岡病院 漢方内科

木村 豪雄

Hideo Kimura

【演題】

慢性炎症性疾患に対する 一貫堂医学の運用

関西には森道伯一矢数格一中島随象という一貫堂医学の系譜があります。中島随象先生に師事した山本巖先生は、昭和最後の漢方医と言われた中島随象先生直伝の一貫堂医学を駆使して様々な難治性疾患に対峙し成果を上げたといわれています。

近年、様々な慢性難治性疾患の基礎病態として「慢性炎症」の存在が明らかにされてきました。注目すべきは、「慢性炎症」という概念すら存在しなかった時代において、中島随象先生・山本巖先生は、既にその病態を認識していたかのように漢方処方を運用し高い治療成績を残していたのです。なぜ一貫堂医学が重要なのか？それは慢性炎症性疾患に対し極めて有効な治療手段だからです。一貫堂医学における「補瀉の考え方」、その運用と特長について症例を交え、中島随象・山本巖一貫堂医学を継承する木村豪雄先生に解りやすくご講演いただきます。

【学歴・職歴】

- 1986年 福岡大学医学部卒業
福岡大学脳神経外科講座入局
- 1993年 福岡大学大学院医学研究科修了
福岡大学医学部脳神経外科講座助手・
病棟医長・医局長を歴任
- 2000年 飯塚病院 漢方診療科 研修
漢方を三瀧忠道先生に師事
- 2002年 飯塚病院 漢方診療科診療部長
- 2004年 ももち東洋クリニックに出向
(院長職、飯塚病院漢方診療科診療部
長兼任)
- 2010年 小郡漢方塾に参加、福富稔明先生に師
事し「山本巖の漢方」を研鑽
- 2013年 桜十字福岡病院漢方内科 現在に至る

【学会活動】

- 日本東洋医学会専門医・指導医
元日本脳神経外科学会専門医

【その他】

- 福岡大学医学部 臨床教授

【著書】

- 新解釈 山本巖の漢方クリニカルQ & A 入門編、
メディカルユーコン、2022年
- 新解釈 山本巖の漢方〈実践編〉
一貫堂医学による治療の実際、メディカルユー
コン、2024年

